

能登半島地震 被災地派遣活動報告

本年1月1日、能登半島にて巨大な地震が発生しました。町としても避難所運営支援や現地自治体職員の支援を行うため継続的に職員を派遣し、被災地での活動を続けてきました。また、消防団員(勝山)の林俊太さんは、県社会福祉協議会の復興ボランティアに応募され、今回、町民の皆さんに被災地の実態を知っていただくため、派遣職員等の現地での活動レポートをお届けします。



石川県輪島市で 避難所運営支援

総務課 主査 野村浩貴
総務課 主査 矢野祐史

1月27日から2月3日の8日間、輪島市の中心部にある鳳至(ふげし)公民館で避難所の運営支援を行いました。市内は建物の約半数が倒壊しているなど悲惨な状況で、道路は至るところで割れており、通行できない状況でした。また、市内は断水しており、避難所である公民館も「水」を使うことができず、避難している約100名の方は、トイレ、お風呂、洗濯がままならない中で避難生活を送っていました。私たちは24時間勤務している輪島市職員のサポートとして入り、来客対応や館内清掃、感染症予防のための消毒作業などを行いました。

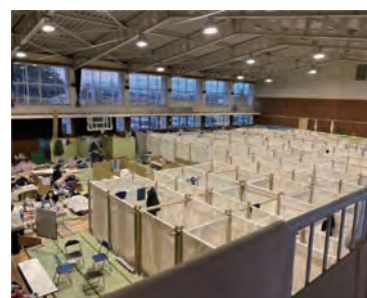
今回の派遣で自然災害の恐ろしさを目の当たりにしましたが、この貴重な経験を活かし、備蓄品や防災体制などを見直していきたいと思います。



石川県輪島市で 避難所運営支援

企画課 課長補佐 松田 誠
水道環境課 係長 酒向健志

2月8日から2月15日の8日間、輪島市鳳至小学校で、避難者の方々と輪島市職員を支えるため、避難所の支援に行ってきました。避難所では、避難者の方の食事の配膳や倉庫の片付け、支援物資の仕分け、在庫確認、ごみの分別、小学校廊下の片づけ、トイレ掃除、トイレの水くみ、ストーブの給油、下駄箱制作など毎日多くの作業を行ってきました。



輪島市内は、道路に埋まっているはずの下水道マンホールが腰の高さまで浮上し、家という家が全壊及び半壊の状態、平衡感覚を失うほどでした。今更ながら、地震という大きな力の怖さを目の当たりにしました。

岐阜県による避難所支援は5月末で終了しましたが、今でも仮設住宅などで避難生活をしている方は大勢います。きめ細かな支援の必要性を強く感じました。

石川県輪島市で 避難所運営支援

教育課 主幹 若泉貴弘
水道環境課 主任 山口恭平

2月26日から3月4日の8日間、輪島市の避難所である鳳来保育所の運営支援に行き、避難所内の見回りや炊き出しの配膳などを行いました。避難所に従事している輪島市職員の方は、災害発生時から依然として避難所支援を続けており、休むことなく働き続けています。輪島市職員の方の負担軽減にも繋がるため、避難所が開設されている限り災害派遣は必要だと思いました。



また、災害発生から3ヶ月が経過しても建物は全壊・半壊状態であり水道も通っていない状況で、普段当たり前と思っている生活が当たり前ではないと改めて感じました。

石川県輪島市で 避難所運営支援

こども課 主査 曾我和樹
産業建設課 主任 堀部大樹

5月9日から5月15日までの7日間、輪島市の鳳来保育所へ避難所運営支援に行きました。0時から8時までの時間帯に勤務し、主に防犯のための見回りや、支援物資の補充を行いました。避難者の方々が寝ている時間帯での勤務ではありませんでしたが、避難所で安心して過ごすためには必要なことだと感じました。避難所運営支援で得た経験を今後に活かし、防災意識を高めていきたいです。

被災から約5ヶ月経ちましたが、下水道や家屋等が復旧されていないところが多くありました。1日でも早い復興を願っています。



石川県中能登町で 罹災証明発行支援

福祉課 課長補佐 岩瀬尊信
福祉課 主任 小垣翔大

1月18日から1月22日の5日間、中能登町役場で罹災証明発行支援を行いました。被災者の方々の被害写真から聞き取り、罹災証明書発行を連日100人以上サポートしました。お話を聞き、被害写真から今回の地震被害の深刻さを思い知り、ライフライン復旧や衣食住の供給、心のケアが早急に必要と感じました。また、現地職員も元日から休みなく働く状況で、皆さんを支援するため継続的派遣が必要と感じました。



5日間でしたが、貴重な経験をさせて頂きました。今回の経験を忘れることなく、今後の業務に活かしていきたいと思っています。

石川県中能登町で 住家被害調査業務

こども課 主任 足立晃規
企画課 主事 村上 奨

2月18日から 2月21日の4日間、中能登町で住家の被害状況に応じて、全壊、大規模半壊などの判定を行う住家被害調査業務を行いました。被災より 2ヶ月半経った時点で木造の住家で 900/1500件ほど調査済みであり、住家以外の建物や非木造も考慮すると引き続き支援が必要な状況であると感じました。そのような状況下でも現地では「岐阜県さんいつも本当にありがとうね。」とたくさんの方に言っていただき、自分が被災した時に同じような言動が取れるだろうか？と、感銘を受けました。また要請がありましたら、どのような形で中能登町に協力致します。



石川県金沢市で 保健師として 避難所巡回

こども課 主査 河邊紗穂里

2月19日から 2月24日の 6日間、金沢市にある 1.5次避難所へ避難されている方の健康管理のため、岐阜県の保健師の一員として行ってきました。家屋の倒壊等により、自宅から遠く離れた場所へ避難しなければならなくなった方々で、持病があり、身体面や精神面で支援が必要な方が多くみえました。避難所での生活は、食事や運動が偏ってしまうため、持病の悪化が引き起こされます。現場で初めて会う多職種との連携が重要となりました。平常時より、様々な職種と交流をし、それぞれの特性について理解しておくことが重要であると改めて感じました。



石川県珠洲市で 下水道管調査業務

水道環境課 係長 三品道史

4月8日から4月13日の6日間、下水道管路第二次調査のため、珠洲市に行ってきました。二次調査は、一次調査により異常が確認された管路の中に、TVカメラを入れて、被害状況を詳細に確認するための調査です。調査の結果、マンホールは道路との段差や内部の壁に亀裂が入っていました。管路内は継手部分の破損、たわみ等により浸入水や砂の堆積があり本来の流下能力が確保できない状態で、全体として 90%以上の被災率でした。

今回の派遣では、実際に被災した時に町がどうなるか考えさせられ、今回の経験、感じたことを今後の業務に反映し、活かしていくことが大切だと感じました。



石川県七尾市で 被災家屋の撤去作業

坂祝町消防団 林 俊太

3月23日に石川県七尾市で災害ボランティアとして活動しました。地震発生から約3ヶ月経っても復旧が進まない被災地の現状を目の当たりにしました。主に被災家屋の片付けと瓦礫の撤去を行いました。限られた時間での活動で、依頼者の気持ちを大切に、声掛けや配慮が重要であると学びました。自身の力としては微力ではありましたが、現地の方から感謝の言葉をいただき、参加して本当に良かったと感じました。30年以内に南海トラフ地震が起こる可能性が高いと言われています。減災が出来るよう自助、共助、公助を考えていきたいです。

防災ガイドブックのご確認を

町では地震、洪水、土砂災害など災害に関わる情報をまとめた「防災ガイドブック」を作成しています。自分が住んでいる地域の避難場所や避難方法、備蓄品の準備について掲載していますので確認しておきましょう。

問い合わせ先：
総務課 ☎66-2401

防災ガイドブックはコチラ▶

